

◆人権教育 子ども

メディア:DVD・D、V:ビデオ 対象:幼稚園児:幼、小学生:小、中学生:中、高校生:高、青年:青、教員:教、PTA:P

大分類	小分類	番号	作 品 名	メディア	時間 (分)	対象	内 容
人権教育	子ども	984	名前…それは燃えるいのち (アニメ)	V 字幕	18	小中	桜が舞い散る、新学期。4年3組の新しい担任になったのは、姜明子(カンミョンジャ)先生でした。元気いっぱいクラスの中で、よりかと平吉は宿命のケンカ友だち。名前のことでケンカになったよりかと平吉に姜先生は宿題を出します。「自分の名前のことを調べて、みんなの前で発表してください」翌日、みんなの前で発表する二人の顔は輝いていました。…両親の深い愛情に気付いた、よりか。…ブラジルに移住した祖父を誇りに思う、平吉。そして姜先生にも、自分の名前への深い思いがありました。民族ソク名を隠し、「あきこ」と名乗っていた中学生の頃、姜先生が出会ったのは、ゴダイゴの「ビューティフル・ネーム」でした…
人権教育	子ども	985	いじめはゼツタイわるい！ (アニメ)	V	12	小	小学3年生の健一は、近ごろ学校へ行くのがつらい。茂樹・広平・浩の3人にいじめられているのだ。浩なんて、大の仲良しだったはずなのに…。学校の帰り道、健一の前ひとりの中学生が現れる。洋介と名乗るその中学生は、自分も小学生の頃からいじめられていたと言う。「いじめられたら、先生でも誰でもいいから大人に知らせて助けてもらうんだ。それは全然、卑怯なことじゃない。いじめるヤツらがゼツタイに悪いんだ」そう教わった健一は、勇気を出して先生に打ち明けた。健一へのいじめはなくなった。しかし…。こんどは浩がいじめの標的にされている。しかし健一はしらんぷりをして通り過ぎようとする。その様子を見ていた洋介が、「いじめを見て知らんぷりするの、おまえもいじめをやっているのと同じことなんだぞ！」健一は駆け出し先生を呼んでくる。浩を助け、あたりを見回した時、洋介の姿はもうなかった。
人権教育	子ども	986	中学生のいじめを考える 被害者・加害者・観衆・傍観者	V	19	中高 教P	啓子は、徹たち、いじめっ子グループから「汚い」「臭い」といじめられるようになる。小学校からの親友、由梨までも啓子避ける。親友が「観衆」「傍観者」としていじめに加担したことに強いショックを受ける啓子。だが、啓子は、親を悲しませたくないという思いからいじめの辛さを誰にも告げることができないでいた…。徹のいじめは、家で自分の思うことを何も口にするのができないストレスからきているものだった。だが、ある日、仲間から裏切られる。上級生に呼び出され、暴力をふるわれるようになる。徹は、いじめられる側になって自分がいままで自分の言いたいことを言っていなかったことに気づく。そのとき、傷ついた徹にそっとハンカチを差し出したのは、いじめられていた啓子だった…。ドラマに出演した子役の中学生たちが「いじめ」を語り合う。また斎藤環先生・尾木直樹先生のアドバイスも収録
人権教育	子ども	1012	桃色のクレヨン(アニメ)	D	28	幼小 中 青 教P 一般	知的障害のいとこのふれあいを通じて、大切なこと(「かけがえのない命」の大切さを感じる、「思いやり」の心」を大事することなど)に気付いていく主人公の姿をテーマにしており、子どもと大人が一緒に見て楽しめ、少しほろっときて、それでいて心が温まる作品です。
人権教育	子ども	1032	いわたくんちのおばあちゃん ぼく、戦争せんけえねー (アニメ)	D	20	小中	この作品は、昭和20年8月の広島で起こった実際のお話をもとになっています。戦争は、人の命を奪う最悪の人権侵害ともいえます。この作品を視聴した後は、平和や命の大切さを、学校で、地域で、家庭で話し合ってみて下さい。〈H21年〉
人権教育	子ども	1043	ねずみくんのきもち (アニメ)	D	12	幼小	ロングセラーのねずみくんの絵本シリーズの中の「ねずみくんおきもち」を映像化した作品で、いじめやコンプレックス、自然とのつながりなど大切なテーマを、ねずみくんと一緒に学べる楽しいアニメーションです。〈H21年〉

メディア:DVD:D、V:ビデオ 対象:幼稚園児:幼、小学生:小、中学生:中、高校生:高、青年:青、教員:教、PTA:P

大分類	小分類	番号	作 品 名	メディア	時間 (分)	対象	内 容
人権教育	子ども	1065	子育てに希望を！ 児童虐待のない社会のために	D 字幕	19	高青 P一般	児童虐待の背景の一つには、母親の子育て環境の問題があると考えられています。母親なら誰でも感じることのある子育ての不安。その不安から起因する問題とその解決法を、再現ドラマや、埼玉県和光市での取り組みについて収録されています。
人権教育	子ども	1073	ありったけの勇氣	D 字幕	27	小教 P	友達との関わりや相手の気持ちを考えることの大切さ、いじめをなくすためにお互いに認め合い、本音で話せる関係づくりなど、いじめに立ち向かう勇氣の大切さを訴えかけるドラマ作品です。
人権教育	子ども	1095	小学生篇 いじめと戦おう！ 私たちにできること	D	21	小教	鑑賞した児童が、いじめの加害者・被害者・傍観者の立場を理解し、自分の身に当てはめて考えることができるドラマ形式の教材です。クラスの大多数を占めるであろう傍観者がいかにして”いじめの構図”を崩せるかという視点を中心に、クラス全体で話し合うために活用いただけます。
人権教育	子ども	1097	中学生篇 いじめと戦おう！ ～もしもあの日に戻れたら～	D	23	小中 教P	いじめによる中学生の自殺報道が相次ぎ、全国的に子どもの命や尊厳を守るための取り組みが必要とされています。いじめはどのようにして起こり、どうすれば防げるのかは保護者や教員にとって大きなテーマともいえます。本教材は、鑑賞した生徒がいじめのメカニズムや対策を自分の身に置き換えて考えることができるドラマ形式の教材です。
人権教育	子ども	1109	君が、いるから	D 字幕 副音声	33 分	高青 教P一般	子どもや若者は、社会の希望であり、未来をつくる存在です。しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。母親からの心理的虐待に悩む主人公「奏」が、コンビニエンスストアを舞台とした「ほんの小さな冒険」をきっかけに少しずつ変わっていきます。人々とのふれあいを通して、ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることが奏の成長を通して描かれています。
人権教育	子ども	1113	いじめ 一歩ふみだす勇氣	D 字幕	19 分	中高 教P一般	いじめの傍観者だった中学生の主人公が葛藤し、仲間と一緒にいじめの被害者を救っていかうとするストーリーを通して、いじめ解決のために一歩踏み出すことの大切さを伝えます。ドラマに登場するいじめの被害者・加害者・傍観者それぞれの立場に自分を置き換えて視聴することで、もし自分がその人物ならどうするか考え、話し合い、よりよい行動をとる力をつけていくことをねらいとしています。
人権教育	子ども	1114	いじめ 心の声に気づく力	D 字幕	19 分	小中 教P一般	小学校中・高学年向けの、いじめ防止教材ドラマです。一見、ふざけ合いや遊びに見える行為も、相手が苦痛を感じていれば、それはいじめです。子どもたちがドラマに登場するいじめの被害者・加害者・傍観者それぞれの立場に自分を置き換えて視聴することで、いじめの行為を受けたクラスメイトの本当の気持ちに気づく力を養い、傍観者にならず、解決のために行動しようとする意識をもつことをねらいとしています。

メディア:DVD:D、V:ビデオ 対象:幼稚園児:幼、小学生:小、中学生:中、高校生:高、青年:青、教員:教、PTA:P

大分類	小分類	番号	作 品 名	メディア	時間 (分)	対象	内 容
人権 教育	子ども	1117	防ごう 子どもの虐待 日常の子育てから考える	D 字幕	25 分	青教 P 一般	虐待というと激しい暴力を思い浮かべますが、必ずしもそういう行為ばかりを指すものではありません。日常の中で、不適切な子育てを繰り返せば虐待になり得ます。虐待の芽は日常生活の中に潜み、誰もが虐待の当事者になる可能性があるとともいえます。そうした観点に基づき、ドラマと専門家の解説を通して、日常の子育ての中で起こりがちな問題点を示し、虐待を防ぐために私たちにできることが描かれています。
人権 教育	子ども	1121	夕焼け	D 字幕 副音 声	35分	青・ 教 ・P・ 一般	<p>主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも「家族のことは家族であるのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。</p> <p>この作品では、お互いに気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。</p> <p>年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として制作された人権啓発ドラマです。</p>
人権 教育	子ども	1135	あなたのいる庭	D 字幕 副音 声	35	中高 青教 P	<p>社会には、虐待や貧困、死別など様々な理由で保護者と暮らせず、児童養護施設など社会的養護のもとで暮らしている子どもたち、そして社会的養護下から自立したが、家族からのサポートを得られずに生きる人たち(ケアリーバー)がいます。</p> <p>社会的養護の現状や実態を知る人は少なく、世間からの無理解と偏見にさらされ、居場所を見い出せず、進学や就職など生きる上で様々な困難に直面している現状があります。</p> <p>次代の社会を担う子どもたちが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていかなければなりません。</p> <p>「子どもの人権」について改めて考え、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。</p>